

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良県立法隆寺国際高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒636-0104

奈良県生駒郡斑鳩町高安2丁目1-1

E-mail (学校代表のメールアドレスはありません)

Website http://www.nps.ed.jp/horyuji-hs/index.htm

幼児児童生徒数 男子451名 女子484名 合計935名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「学力の向上を図り、社会で生きる力を育み、ユネスコスクールとしてESDを推進する学校」としてESDを本校の教育活動の柱のひとつとして捉え、ESDの実践を通して持続可能な開発のために積極的に考え、行動できる人材の育成を目標とした。

具体的には、①国際理解・文化多様性②地域の伝統文化と歴史・文化遺産③持続可能な開発のためのグローバル目標の達成、の3点を柱に、各教科、クラブ活動、課外活動等を通して学習を行った。

①国際理解・文化多様性

本校では、以前よりオーストラリア・メルボルンの Mount Lylidale Mercy College と姉妹校交流を行っており、今年度は9月に21名の生徒を約10日間受け入れ、本校生徒宅でホームステイをしながら、授業体験、世界遺産の法隆寺見学、弓道・書道・茶道体験などを行い、交流を深めた。法隆寺見学の際には、本校のユネスコ同好会の生徒が英語で寺内の案内をし、歴史的・世界遺産的な意義について説明を行った。法隆寺案内は国内外に関わらず、留学生や外部の来

客が来た際に同クラブの生徒が行っている取り組みである。

さらに、今年度はドイツ Gymnasium Ernestinum Rinteln 高校派遣に本校生徒 15 人参加した。現地ではホームステイや授業体験だけでなく、ハンブルグ、ハノーバー、ベルリンといった主要都市を訪れ、ドイツの歴史と文化の理解を深めることができた。何より今回は両校の姉妹校協定を結ぶことができたので、今後両校の絆をさらに深めていきたい。また、その中で生徒が経験したことや考えたことを「ユネスコフォーラム」で発表した。

②地域の伝統文化と歴史・文化遺産

歴史文化科では、学科専門科目において、地元奈良や近畿地方の寺院や神社、博物館、研究機関、大学、図書館等を訪問し、世界遺産の建造物や国宝の文化財などを見学し、その価値と普遍性について自ら学び、それにより郷土の歴史や伝統文化を理解し、文化遺産の保存や伝承の方法について考えさせ、広く人類の文化に貢献する教育活動を行っている。

そして生徒自身が調べたり考えたりしたことを「ユネスコフォーラム」で発表したり提言したりしている。

③持続可能な開発のためのグローバル目標の達成

ホールスクールプロジェクトの一環として、昨年度より創生（総合的な学習の時間）の中で ESD、特に持続可能な開発のためのグローバル目標（SDGs）の理解と行動を促進する授業を 2 年生の歴史文化科を除いた、普通科・総合英語科全てのクラスで行った。ESD の理念に則り、授業形態も単に知識の伝達にとどまらず、体験を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチをとった（添付資料：第 2 学年創生（ESD）教員用）。授業の質の向上のために、職員研修を行い（添付資料：「ESD と創生（案）」）、職員間の共通理解を測った。



①ドイツ交流の写真



②ユネスコフォーラム歴史文化科発表



③ ユネスコフォーラムドイツ派遣生発表

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・「私たちが目指す世界—子どものための「持続可能な開発目標」—2030年までの17のグローバル目標」
- ・文部科学省ホームページ
- ・「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

歴史文化科では、教育課程の中に日本の歴史や伝統文化、郷土史を学ぶ専門科目を設定しており、年間計画の中でいつどの時間にどのような学習をするのか具体的に定めている。

また、普通科と総合英語科では、1 学年の総合学習の時間で、郷土史や持続可能な発展などについて自ら考える機会を設けている。また総合英語科では毎年留学生を受け入れ、さかんに国際交流を行っている。これらの活動について、定期的に会議を開き、指導の工夫と改善に努めている。

さらに、普通科と総合英語科の 2 年生の創生（総合的な学習の時間）3 時間を利用し、「ユネスコスクールと ESD」というテーマで教科担当、校務分掌に関係なく、ESD を主とした授業の実践を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、第一学年生徒全員で法隆寺を見学している。まず歴史文化科生徒が法隆寺で事前学習を行い、見学の当日には普通科、総合英語科の生徒全員が学校から法隆寺へ徒歩で向かい、境内で歴史文化科生徒の説明を聞きながら法隆寺の建築や美術などの文化遺産を見学する。このような学年全体の行事を通じて、郷土の文化遺産を学ぶ機会を設けている。また、図書国際教育部を中心に留学生の受け入れと派遣を毎年行い、歓迎式典や交流会を行っている。留学生に対しては、ユネスコ同好会の生徒が英語で案内もしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価総括表の重点目標の中に、めざす生徒像として、「自ら学び、表現する力を身につけている」、「わが国や外国の文化・伝統を理解し、国際感覚を身につけている」などの項目を、また、めざす学校像として、「ユネスコスクールとしての取り組みができていく」「生徒の主体的な活動を重視している」「言語活動の充実をはかっている」などの項目を設け、これに基づいて具体的な方策を示し、到達の度合いを教員で自己評価している。これらの項目に対する評価は概ね良好で、今後も質の向上のためにさらに努力をしていくことが大事であると考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

毎年地元のホールで開催している本校生の発表会「ユネスコフォーラム」において、持続可能な発展、環境問題に関する啓発活動、歴史や伝統、郷土の文化に関する調査研究、国際理解と国際交流についての発表などを実施し、全校生徒に呼びかけている。またこのユネスコフォーラムは地域の人々、中学生等の校外の方々にも広く公開し、生徒の研究や提言を発信している。生徒たちが環境問題や国際理解、郷土の伝統文化などについて興味・関心を持ち、真剣に考える機会となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

A C C U 奈良の世界遺産教室を受講したり、奈良大学、阪南大学、天理大学との高大連携で大学での模擬授業や発表会に積極的に参加したりしている。また、斑鳩町立図書館、奈良県立図書情報館において毎年学習活動を行い、近隣の博物館、美術館、資料館、寺社などを校外見学で訪れたり、発表学習で利用したりしている。生徒会活動においても、町内の中学校と協力して清掃活動を行ったり、町の活動に協力してボランティア活動を展開したりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校は大阪 ASP ネット加盟校でもあり、主にユネスコ同好会の生徒が近畿圏内のユネスコスクール校の生徒と協働し、日中(韓)ESD国際ワークショップに参加をしている。その中で、ESD的な考え方や行動について深めたり、身近なESDを阻害する要因について考えたりして、その成果をプレゼンテーション等で発表もしている。
また、ユネスコスクールではないが、オーストラリア・ドイツの2校と姉妹校協定を結び、異文化交流やそれぞれの国の歴史や文化遺産について学び合いの機会ができています。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

昨年度より実践していることであるが、2年生の総合的な学習の時間で歴史文化科を除く全クラスで直接ユネスコスクール・ESDに関する授業をできていることが大きな成果であると考えている。それまでは、ESDとは一部の担当教員が行っているという意識も教員間の中で少なからずあったが、教科・校務分掌に関係なく全ての教員がESDに関わる機会ができることで、全教員がESDをどのように教育活動に取り入れていくか、考えることができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も今年度と同様に、3つの柱を基本として、ESDの実践をしていく予定である。そして、その学習と活動の成果を年度の後半に行われるユネスコフォーラムで発表し、報告の場としていきたい。

歴史文化科の生徒は、従来どおり3年間の課題研究の成果として卒業前の3年生が主体となって発表していくが、総合英語科に関しては、2年生が発表の主体となっていく予定である。普段の授業の中で触れられている、環境・異文化理解・平和・人権など生徒の興味と関心に合わせて選んだテーマについて探求し、英語で発表する。

国際交流に関しては、来年度はドイツ姉妹校の受け入れとオーストラリア姉妹校の派遣があるため、事前指導を強化し、国際理解教育を充実させたい。

また、ユネスコ同好会は大阪ASPネットと引き続き協力し、ESDの考え方について深めていきたいと考えている。